

5分でできるフォトシネマ ～行事が盛り上がること間違いなし！～



西澤 廣人
埼玉県立所沢西高等学校
家庭科 & 情報科
hiroto@cb3.so-net.ne.jp

1 情報科社会に生きる力って？ つながる力、つなぐ力

- 1) どんな力をつけていったらいいのか？ 授業評価のためのフィードバック(活動を仕掛け、記述の中から)
 - ・感覚をみがく(新しいものを恐れない・なんとかなる・クールに見る)
 - ・問題解決を楽しむ(身近に関心を持つ・教え合う・グループで取り組む)
 - ・学習活動の中でのコミュニケーションを大事にする、伝える相手を意識した活動をする
- 2) 成果をあげるためには？ プロジェクトワーク
 - ・お互いが必要となるチームを作る(それぞれの得意を生かす。好き嫌いを超えて協力が必要な状況に。)
 - ・ときどき散歩に出かける(アイデアを探しに散歩をうながす。グループで見に行くツアーも有効。)
 - ・人と関わるストーリーをテーマにし、ちょうどよいサンプルを示す
(授業の枠を超えて、学校生活と関わることを。ゴールのイメージと、伝える相手をはっきりさせる。)
 - ・一粒で2度おいしい形にする(気持ちを伝える作品と、活動を伝えるWebページ作りと。)
 - ・種まきと渦巻きで仕掛ける(行事を利用して種をまく。中間発表でもっと作りたい気にさせる。)
- 3) 生徒にとって次へつながる評価と教員が通知表をつけるための評価 苦勞が報われる評価のために
 - ・他人の作品をじっくり見ることで、見る目を養っていく。例: Webページの相互評価
 - ・「できた」「できない」を超えて、考え方や行動の仕方の深まりを重視。例: 記述の中での評価
 - ・生徒が行う評価の信頼性を高めるために、普段の活動の中での言葉かけが重要。

2 フォトシネマ活用の実際 所西では生徒たちがグループでフォトシネマを作っています

- 1) 種まきはさりげなく、でも計画的に、日常的に行っておく
授業のネタとしてではなく、行事のときを使って事前に見せておく。行事の写真を複数で撮影しておく。
- 2) 写真選びに時間をかける、そしてあっという間に作りあげる <おまかせモード>
仲間といっしょに選ぶ時間が、作品に対する思いをふくらませることになる大事な時間になる。
「すぐに」「すごい」作品で、楽しいという感覚を。(できるかなという不安 簡単じゃない! 安心)
- 3) 言葉を選んでいれて、作品として形を作る <自分でモード 1>
リアルタイムでの編集体験を、まずはやさしいところから。(音楽にのりながら、編集作業をすすめる。)
どこにどんな言葉を入れたらいいのか。(写真とタイミングとメッセージ)
- 4) 思ったとおりのところで、思ったように写真を出して自分たちの作品にする <自分でモード 2>
コントロールの難しさを、役割分担をすることで。(マウスとキーボードを分担して声をかけあって)
乗り越えた時の喜び(力をあわせることで波をのりこなせた感覚 自信とチーム意識)
- 5) 作り手が語る場、感動を共有する場を用意する
自分に対する自信、語りたくなる活動と作品、活動を盛り上げた自分たちや学校に対する誇り

3 教師が行事に使うと、子どもたちもやってみたくなる

- 1) 行事の振り返りに、プロジェクトで上映する
さっきまでの光景が音楽によって流れると、子どもたちの振り返りの気持ちがぐっと深くなります。
- 2) 子どもたちも作成に参加させていく
デジカメを使うところから。個人作成よりも写真選びからはじめてグループでの作成がおすすめてです。
作品を見せる場合は、学校の中の様々な場面にあります。学校説明会～文化祭～卒業式まで使っています。

フォトシネマとは？

- 1) 正式名は、LiFE with PhotoCinema(デジタルステージ社) <http://www.photo-cinema.com/>
2002 年夏前にデジタルステージから発売になった純国産のアプリケーション。(英語版がない)
2002 年のグッドデザイン金賞を受賞、2003 年デジタルコンテンツグランプリ(経済産業省共催)で
パーソナルアーカイブ賞受賞など、業界での評価は非常に高いアプリケーションです。
Mac でも Windows でも作成でき、できあがった作品は、単体のアプリケーションや Web ページとして
書き出すことができるため、このソフトをもたない人にも見せることができます。
(所沢西では、生徒は Windows2000 の PC で作っています。私の Mac で作品を CD に焼き、作成した
今年の卒業生たちに記念としてプレゼントしています。)
- 2) 2003 年の Mac Fan 3/15 号の「Mac のある学校へ行こう！」 & 学研「NEW」7月号
所沢西でのフォトシネマで「学校紹介 CM 作り」の授業展開や発表会の様子が紹介されました。
- 3) 学校で使うフォトシネマ <http://www.thinkedu.net/>
私の個人サイトにページを作りました。学校でフォトシネマを使ってみたいと考えている方のための
ユーザグループも作りました。現在はメーリングリストのみですが、北は北海道から南は沖縄までの
メンバーで情報交換をしています。よろしかったら御参加下さい。参加希望の方はメールを私まで。
(今年の夏にネット上で小さな展覧会をしたいな～ということで動き始めています。)

埼玉県立所沢西高等学校 <http://www.tokonishi-h.spec.ed.jp/>

所沢西高校は、普通科のみの県立高校。1年生で「情報A」を2単位(2時間連続)で設定。3年生の選択科目に「家庭情報処理」(1998年～)がある。家庭科でのデジカメ利用は1995年から。1年生の「家庭一般」の中で調理実習のまとめを Web ページで作成し発表をするという授業を家庭科室に作ったマックのネットワークで1996年から行ってきた。2000年夏に Windows2000 を中心にマックをプラスしたコンピュータ室ができ、今年度発表活動用にプチ改造。(液晶タブレットが入り、教師の提示がよりスムーズに。さらにプレゼンステージのスポット照明も4灯つけてしまいました。ワイヤレスマイク4本を設置準備中。)

昨年の文化祭のオープニングで準備の様子をとった写真でのフォトシネマを使い、10月から「家庭情報」の授業で生徒たちが作品作りをはじめた。12月の学校説明会で披露した生徒作品は生徒募集にも好影響で、校内での認知度が高まる。3月の卒業式には、ステージの外側の両サイドにスクリーンを設置。卒業証書授与の生徒の顔をアップで投影する他、エンディングの部分で生徒が卒業式のために作ったフォトシネマ作品を上映した。

今年度は、「情報A」の授業が1年生ではじまり、この中でもフォトシネマで作品制作にチャレンジ。卒業生の作品のサンプルがあったため、短時間でもかなりの作品を作り上げることができた。グループ発表でプロジェクトを使ってそれぞれの作品を紹介する体験が学校やクラスへの帰属意識を高めることにもつながったようだ。フォトシネマに限らず、所沢西ではプロジェクトの利用が活発で、進路関係の説明会や学年集会で教員が使うほか、「キャリアデザイン(総合的な学習の時間)」の発表会(11月)では、8クラス8会場で同時にプロジェクトとノートPCと校内LANを使って、生徒たちがグループ発表を行うことができた。行事では生徒会の新入生歓迎会、文化祭など各行事をはじめ、生徒会の交流会でもフォトシネマを利用。そして、3月初旬の卒業式には、今年の家庭情報の生徒たちが「泣かせるために」作った作品が上映された。

自己紹介 個人 site <http://www.thinkedu.net>

1992年に妻が妊娠 長男の誕生に立ち会い、人生観が変わる。1993年に育児休業を7ヶ月とり、家事育児の重要性を実感する。1994年に女子栄養大学で1年間研修を受け家庭科の免許を取得し転科。1995年から現任校で家庭科を担当。2003年からは「家庭科」をメインに「情報」をサポートすることができればと考え、現在「家庭総合」と「情報A」を1年3クラスで週4時間と3年選択「家庭情報処理」を担当している。

1999年6月アメリカでの教育とコンピュータの大会 NECC に日本チームの一員として参加。日本人としてはじめての発表を行う。2000年夏埼玉県主催の「情報」免許取得研修を受ける。2000年秋～冬 JAPET 主催の情報化コーディネータ研修(Web研修)を受ける。2002年夏「情報」免許取得研修(埼玉)で講師(プレゼンテーション実習)担当。2003年夏、iEARN 国際会議(<http://2003japan.jp/>)で発表、家庭科10年研修(埼玉)講師。CEC ポスターに続いて、CG-ARTS 教育セミナー、D-pro 春の公開研究会でも発表。2002年～放送大学大学院科目履修生になり、家庭科専修免許取得。

- ・「Macintosh パーソナルマルチメディア」(オーム社 1994 毛利孝夫氏と共著)
- ・「情報A教科書 Let's Click」(東京書籍 2003 編集委員) など